

## 「タグラグビーティーチャー研修会 in 道南」実施報告

3年振りに、道南森町にある道立青少年体験活動支援施設「ネイパル森」を会場に、「タグラグビーティーチャー研修会 in 道南」を開催しました。

今回は、ラグビー及びタグラグビー経験者17名と未経験者7名を対象にした開催となりました。加えて、未経験者7名はネイパル森の職員であり、社会体育の場面での活用が期待されます。

こうしたことから、今回の内容は、前回の「未経験者がゲームをできるようになるまで」というテーマから発展させ、日頃からタグラグビーに携わっている指導者等には「より深い内容や練習の組み立て、オプション等」を身に付けていただく内容を、未経験者には社会体育の場で活用できる内容を実践しました。

講義では、現代のスポーツ指導における指導者責任や指導者研修の必要性（知識・技能の獲得、受講者からの信頼感等）から入り、安全配慮義務、指導法（プレイヤーファースト）、コンプライアンスなど、昨今のスポーツ指導の現場で必要とされることも盛り込み、指導者としての自覚を促す内容としました。加えて、中学生がプレーする動画視聴から、小学生よりも動きのある（運動能力の高い）イメージを持ってもらい、学習指導要領の解説、ラグビー文化の伝達（アフターマッチ等）、タグラグビーのゲームのマナーなど、タグラグビー指導に必要な知識を盛り込んだ内容となりました。そして、何よりもタグラグビーの種目としての魅力について強調し講義を終えました。

実技においては、タグラグビー指導の場面で使えるドリルやそのポイントを参加者に体験してもらいました。特に、エデュケーターとして留意したことは、「子供たちとの接し方」「声かけの仕方」「安全配慮（危機予測）」についてでした。参加者の年齢層が30代～50代中心でしたので、運動量に配慮し、タグラグビーを教え子供たちが喜んで取り組んでくれる指導となるように組み立ててみました。参加者の皆さんからは、子どものように楽しんで喜ぶ大きな歓声があがったことが本実技の成果であったと思います。

運営面においては、助手として、エデュケーター資格者のブラッシュ・アップ及び次のエデュケーター候補への指導と経験を兼ねて実施することができたのは今後の指導者養成活動につながるものとなったと思います。また、遠く都市部「札幌」からの参加者からは、都市部での開催の要請を受け、今後の活動の可能性を高めることができました。

最後に、時間の都合で数名が、最後のゲームを経験することなく退出したことは残念でしたが、終了後、多くの参加者から、「社会体育での活用」や「これからのタグシーズンでの活用」、「再度の研修会の問合せ」などをいただき、今後のタグラグビーの発展に明るい兆しを感じる事ができたことを報告いたします。

文責 山内宣明

